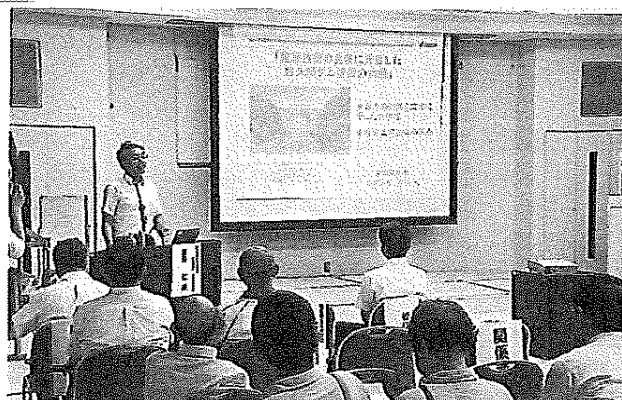




佐久間ダム建設の功績について学ぶ住民ら
—浜松市天竜区の佐久間歴史と民話の郷会館

ダム建設功績学ぶ

佐久間で「天竜川勉強会」

浜松市と国土交通省 参加者は同ダムを管
理する電源開発(丁
川勉強会「天竜川とど
もに生きる」を同市天
竜区佐久間町の佐久
間歴史と民話の郷会
館で開いた。住民が、
同町の佐久間ダム建設
が日本にもたらした技
術発展などに理解を深
めた。

953年の着工後、3
年半で完成に至ったダ
ム建設の経緯につい
て説明を受けた。当時
日本初となる米国製
大型機械を導入した新
工法などにより、佐久
間が戦後の大規模ダム
開発の源流となり、日
本の土木技術革新に貢
献したことなどを学ん
だ。

静岡文化芸術大文化
政策学部(船戸修一
准教授)の講演も聴き、
人口減少の中で集落
を維持するための地域
づくりについて考え
た。

(水窪支局・塩倉将広)

この記事 写真は静岡新聞社の許諾を得て掲載しています。

山間集落の存続探る

佐久間 文化芸大准教授が講演

浜松市と国土交通省浜松河川国道事務所は二日、第五回天竜川勉強会を天竜区佐久間町の佐久間歴史と民話の郷会館で開いた。同区で小規模集落の存続を

目的に住民の聞き取り調査を行う静岡文化芸術大(中区)の船戸修一准教授らが講演し、地域住民が聴講した。

船戸准教授とゼミ生は二〇一三年度の天竜区春野町を皮切りに一五年度から佐久間町でも調査している。一八年度は佐久間、蒲川地区を対象で、七月にはお盆に向けた草刈りも行った。

住民の数や年齢構成だけで集落の消滅可能性を考えるべきではないと指摘し「集落に通う子どもや孫も調査すれば存続の可能性が探れる」と話した。

佐久間ダムを管理する電源開発の中部支店長代理・星野仁さんは、佐久間ダムの歴史と現状を解説した。米国の大型機械を導入し、一九五六年までに工期わずか三年半で当時の国内最大規模のダムが完成し、ダム建設に技術革新をもたらした。戦後の日本に自信を与える実績があったと述べた。(島将之)



集落調査を解説する船戸修一准教授＝浜松市天竜区佐久間町で

この記事 写真は中日新聞社の許諾を得て掲載しています。

地域NEWS

佐久間で天竜川勉強会開く

浜松河川国道

国土交通省浜松河川国道事務所と浜松市は、浜松市天竜区で佐久間ダム完成後の地域社会について学ぶ「天竜川勉強会」を開催した。

勉強会では、静岡文化芸術大学文化政策学部で農村社会学を専攻する船戸修一准教授「写真」が講演。テーマは、人口減少の中で中山間地の農山村に集落をいかに残していくか。フィールドワークを通じて、集落の日常生活が持つ価値を次代につなぐことの意義について語った。

その他、電源開発中部支店の星野仁支店長代理が、佐久間ダム建設の功績などについて解説した。



この記事 写真は建通新聞社の許諾を得て掲載しています。